

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習

教科：工業（インテリア） 科目：インテリア実習 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科 2パート・2サイクル

教科担当者：森田 聡 喜多崎 薫

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に!

科目 インテリア実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	・用具の使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習 の特性を習得できるようにする。	平面構成による デザイン感覚養成 . 鉛筆デッサンによる 描写表現 . パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法の学習 ・講評（伝達表現の基礎）		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・用具やパソコンの使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習		・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法の学習 ・講評（伝達表現の基礎）		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習	平面構成による デザイン感覚養成 . 鉛筆デッサンによる 描写表現 . パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習		・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		13
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学 期	・レタリングと構成についての学習 （平面表現） ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）	文字と平面構成 . プレゼンテーション	・レタリングと構成、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成についての学習 （平面表現） ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）		・レタリングと構成、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成についての学習 （平面表現）のまとめ ・プレゼンテーションについての学習 （造形表現）のまとめ		・学年のまとめとして、レタリングと構成、及びプレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
						合計	117

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリアエレメント生産

教科：工業（インテリア） 科目：インテリアエレメント生産 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科

教科担当者：森田 聡

使用教科書：（インテリアエレメント生産）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に!

科目 インテリアエレメント生産 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	・インテリア材料の（木材・木質材料・金属・テキスタイル・プラスチック等）の特性を習得できるようにする。	・インテリア材料及び加工 ・木材と木質材料 ・木材の性質	・インテリア材料に関する基礎的な知識と技能を習得し、エレメントを生産について理解できる。	○	○		6
	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎を習得し、インテリアエレメントの生産ができるようにする。	・木質材料 ・木材加工の基礎	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎的な知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産ができる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている	○	○	○	1
	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具等の機能分類と様式、材料、構造、システムを習得できるようにする	・インテリアエレメントの構造 ・家具の分類	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具の機能分類と様式、材料、構造、システムについての知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産について理解できる。	○	○		8
	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	・椅子ベッド ・机テーブル ・収納家具	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて知識・技術を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	○	○	○	6
定期考査 ・1学期のまとめ	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1	
2 学 期	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についてインテリアの空間での活用と、その役割を習得できるようにする。	・建具の分類 ・内部用建具 ・外部用建具	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についての基礎的な知識・技能を習得し、インテリアの空間での活用と役割を理解できる。	○	○		7
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着 ・接着の基礎	・接着の基礎と木材の接着性について知識・技能を習得し、家具制作における接着剤の性能と使用法について理解できる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着剤 ・接着用具	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できる。	○	○		8
	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・表面処理 ・塗装 ・塗装の種類	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
定期考査 ・1・2学期のまとめ	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1	
3 学 期	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・塗装用具 ・塗装以外の表面処理	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め学習できるようにする。	・生産技術 ・木材加工用機械 ・生産計画	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め習得できる。	○	○		8
	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等の基礎を習得できるようにする。	・工程管理 ・家具生産の工程	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等について知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査 ・学年のまとめ	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	合計 79

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和5年度（2学年用） 教科

工業（インテリア） 科目 インテリア実習（木材加工 A・B）

教科： 工業（インテリア） 科目： インテリア実習（木材加工 A・B）

単位数： A：2単位 B：3単位（前後期交代で通年では2.5単位となる）

対象学年組： 第2学年 インテリア科

教科担当者： (A) 竹野 秀治・森田 聡 (B) 松本 和樹・青柳 俊政

使用教科書： ()

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取

科目 インテリア実習（木材加工 A・B） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの代表例を題材として製作技術から塗装技術まで総合的に学び、インテリア生産の概要を習得をする	・基礎的な木材加工課題を通して、インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として木材加工技術の進展に対し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア及び木材加工産業の発展に主体的かつ協動的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習	引き出し付箱の製作	・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		16
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	19
	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習		・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		18
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	18
2 学期	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習	引き出し付箱の製作 ・ 箱づくりのための 工具管理	・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		18
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	20
	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習		・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○	○	21
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	16
3 学期	・基礎的な素地調整・着色についての学習	引き出しの塗装	・素地調整・着色の基礎的技術を習得させる。	○	○		16
	・基礎的な下塗り・中塗りについての学習		・下塗り・中塗りの基礎的技術を習得させる。	○	○		18
	・基礎的な仕上げ塗りに関する学習 ・レポートとして課題制作のまとめの学習		・仕上げ塗りの基礎的技術を習得させる。 ・レポートを課題としてまとめの学習を習得させる。	○	○	○	12 合計 196

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 工業情報数理

教科：工業（インテリア） 科目：工業情報数理 単位数：2 単位 2単位（前期・後期2パート）

対象学年組：第2学年 インテリア科

教科担当者：（I組：斎藤俊博）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（工業情報数理 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、工業技術の進展に対応する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理活用する力の向上を目指す。

科目 工業情報数理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
工業の各分野における情報技術の進展と情報の意義や役割及び数理処理の理論を理解するとともに工業に携わる者として様々な状況に対応する技術を身に付ける。	情報化の進展が産業社会に与える影響に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応する力を養う。	工業の各分野において情報技術及び情報手段や数理処理活用する力の向上を目指し、自ら学ぶ態度や工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を育てる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	課題① 3次元コンピューターグラフィクス（3DCG）の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間（高校生の住まい）をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8
	課題② モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得る。またプレゼンテーションをするために必要な手続きを得る。	課題② モデリングしたデータを元に、プレゼンボードを作成、第3者にプレゼンテーションする。 ・レンダリングによる画像生成 ・Illustratorによるボード作成 ・プレゼンテーション	モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得られたか。プレゼンテーションをするために必要な手続きができたかどうか。	○	○	○	7
2 学 期	課題③ 小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学ぶ。また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学ぶ。	課題③ ・小住宅の設計について ・マイホームデザイナーの操作法 ・住宅の間取りの考え方について ・インテリアコーディネート ・プレゼンテーションボードの制作とプレゼンテーション	小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学び、また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学んだかどうか。	○	○	○	6
	課題① 3次元コンピューターグラフィクス（3DCG）の基礎知識と概要 3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を学ぶ。	課題① 小規模な建物を題材として3DCGソフトの操作法を学ぶ ・3DCGとは何か ・3DCGソフトForm-Zの操作法	3DCGはどのようなものを理解し、基本的な操作を習得したかどうか。	○	○	○	6
	課題② コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインする。	課題② 小空間のデザイン 自らの設定したコンセプトに従い小空間（高校生の住まい）をデザインする。 ・エスキース ・単位空間の考え方	コンセプトを立案し、その目的に合った小空間をデザインできたかどうか。	○	○	○	10
	課題② デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解する。	課題② 決定したデザインを3DCGで具現化する。 ・3DCGによるモデリング ・質感の表現 ・照明の設定	デザインを3DCGを用いて具現化する。ものを表現するために質感や照明の設定の仕方を理解しているかどうか。	○	○	○	8
3 学 期	課題② モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得る。またプレゼンテーションをするために必要な手続きを得る。	課題② モデリングしたデータを元に、プレゼンボードを作成、第3者にプレゼンテーションする。 ・レンダリングによる画像生成 ・Illustratorによるボード作成 ・プレゼンテーション	モデリングデータをもとに、レンダリングをすることで具体的な画像を得られたか。プレゼンテーションをするために必要な手続きができたかどうか。	○	○	○	7
	課題③ 小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学ぶ。また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学ぶ。	課題③ ・小住宅の設計について ・マイホームデザイナーの操作法 ・住宅の間取りの考え方について ・インテリアコーディネート ・プレゼンテーションボードの制作とプレゼンテーション	小住宅をデザインすることで、住宅の間取りを考えるうえで必要なことを学び、また、室内空間をコーディネートする上で必要なことを学んだかどうか。	○	○	○	6
	課題④ アルゴリズムとプログラミングの基礎をHTML言語を通して実践的に学ぶ。同時にウェブサイトの構成について理解する。	課題④ ・HTML言語の概要 基本操作 ・課題③を題材にしてウェブページの作成し、プレゼンテーションを行う。	自ら作成した作品をWeb形式にまとめることで効果的な表現ができたかどうか。HTML言語の仕組みと構造について理解できたかどうか。	○	○	○	8
	合計						

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	森田 聡 ・ 矢澤 正己		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習A		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位(2パート・2サイクル)		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアに関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとする ・インテリアの技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う ・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <知識・技能>インテリアに関する描写手法・表現、及び造形、プレゼンテーションにおける知識と技術の理解度・習得度 <思考力・判断力・表現力>対象物の捉え方や造形力、伝達力などを総合的に考え、判断し、表現する習得度 <主体的に学習に取り組む態度>描写表現・造形・伝達への関心と主体的かつ協働的な取組みの度合い 		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	クロッキー・ スケッチ	・人体やその部位・、身の回りの日用品などを題材として、短時間での時間制約の中でクロッキーを行う。最終的には、じっくり描き込む練習も行う。	11
5月			10
6月	家具の着彩	・数種の家具などを構成して、想定的空間設定し、透明水彩絵具を用いて着彩表現の演習を行う。	11
7月			10
8月			
9月	立体造形の構想	・テーマにおける各自のコンセプトを立案し、イメージや世界観をスケッチやスタディーモデルにて表現する。	11
10月			12
11月	立体造形の制作	・様々な材料を選択し、また用具や工法を工夫して、テーマ・コンセプトを伝達できるよう造形表現の基礎を習得させる。	12
12月			10
1月	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ・コンセプトをまとめ、分かりやすいデザインのプレゼンテーションボードを作成する。 ・立体造形作品・プレゼンテーションボードに基づき、プレゼンテーションを実施して他者への伝達の演習を行なう。 	10
2月			11
3月			9
合計			117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	松本和樹・喜多崎 薫		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習A		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位(2パート・2サイクル)		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を見据えた作品集(ポートフォリオ)の作成。自己の成長を伝える表現としてまとめる。 ・画像処理、ドローイング、プレゼンテーション系のアプリケーションソフトの操作技術を向上させる。 ・インテリアパースの着彩練習を通し、生活の場のインテリアコーディネートを理解する。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集と自己表現への関心と意欲的な取り組み ・表現に関する知識と技術の習得と適切な活用 ・着彩技術の知識の習得 		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	ポートフォリオの作成 (A班)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が制作した作品の整理 ・撮影(作品の立体感が出る撮影) ・平面作品のスキャナーによる取込み 	11
5月	※この内容を5週で行う。それを1パートとし、2ローテーションする	<ul style="list-style-type: none"> ・個性ある表現 ・プレゼンテーションの効果を考える ・20ページ以上にまとめる 	10
6月	ポートフォリオの作成 (B班)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が制作した作品の整理 ・撮影(作品の立体感が出る撮影) ・平面作品のスキャナーによる取込み 	11
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・個性ある表現 ・プレゼンテーションの効果を考える ・20ページ以上にまとめる 	10
8月			
9月	インテリアパースの着彩 (A班)	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアの構成を考え、題材選ぶ ・全体のイメージを崩さないように、着彩技術を駆使し表現する 	11
10月	※この内容を5週で行う。それを1パートとし、2ローテーションする	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートに活かす 	12
11月	インテリアパースの着彩 (B班)	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアの構成を考え、題材選ぶ ・全体のイメージを崩さないように、着彩技術を駆使し表現する 	12
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートに活かす 	10
1月			10
2月	インテリアパースの着彩	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業作品に見合うクオリティまで仕上げる 	11
3月			9
合計			117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	齋藤 俊博		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	課題研究(CG班)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	4単位		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗(飲食店)の設計を通して諸条件の課題を発見し、創造的に解決する能力を養う。 ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
評価の観点	自分で立てたコンセプトに沿って店舗のデザインがなされているかどうか。 コンピューターを発想の道具として利用できたかどうか。 3次元の空間を把握できているかどうか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	店舗の基本計画及び 躯体の設計	店舗を題材として、空間構成や質感を研究したのち、各自条件にしたがい、インテリアを設計・デザインする。設計にあたっては、見学や調査を繰り返し行い、新しく快適空間が提案できるよう留意する。また、途中では随時講評会を行い、発表能力も身につける。デザインは3次元CGソフト「form-Z」上に入力し、質感や照明の効果を確かめながらデータ化していく。 完成したデータを元に静止画を構成し、B2のパネルにまとめる。	12
5月			16
6月			12
7月	躯体のモデリング	リサーチ・アイデアスケッチ エスキース・模型作成	16
8月			
9月	質感・光源の設定と 静止画によるプレゼン テーション	モデリングしたデータに質感と光源を設定する。 色・反射・透明度・マッピング・バンプなどの質感設定 平行光・スポットライト・点光源などの光源設定 背景・添景物 B2パネル2枚にまとめる	14
10月			16
11月			14
12月	動画の編集とプレゼンテーション	さらに、ウォークスルーアニメーションを制作、パソコン上のビデオ編集機により構成し、映像によるプレゼンテーションを行う。	16
1月	プレゼンテーション シートの作成	・プレゼンテーション用ソフトを使用しプレゼンテーションの視覚的効果を学ぶ	16
2月	プレゼンテーション	・効果的な展示計画・プレゼンテーションを学ぶ	12
3月	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒展において店舗設計班として店舗の提案を行う ・そのための設営方法や展示計画を行う 	12
		合計	156

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	喜多崎 薫		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習B(色彩)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位(4パート・2サイクル)		
科目の目標	デザインする目的を設定し、インテリアに関する訴求力のあるデザインを色彩と構成から提案できる力を身に付ける。		
評価の観点	各自が設定したコンセプトに沿ったデザイン制作の基礎的な知識と技術を理解したか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	コンセプトとデザイン	ターゲットとなるペルソナを設定し、訴求ポイントを明解にする。	11
5月	リサーチの理解と実際	マーケットリサーチを通してデザインする意味を探る。	10
6月	ファブリックデザイン	モチーフとなる画像を抽出し、アイデアスケッチを展開。下図を完成させる。	11
7月		カラー計画を施し、より訴求力のある色彩デザインを試みる。原画を制作し、PC上で修正、パターンデザインを完成させる。	10
8月			
9月	コンセプトとデザイン	ターゲットとなるペルソナを設定し、訴求ポイントを明解にする。	11
10月	リサーチの理解と実際	マーケットリサーチを通してデザインする意味を探る。	12
11月	ファブリックデザイン	モチーフとなる画像を抽出し、アイデアスケッチを展開。下図を完成させる。	12
12月		カラー計画を施し、より訴求力のある色彩デザインを試みる。原画を制作し、PC上で修正、パターンデザインを完成させる。	10
1月	デザイン展開	テキスタイルデザインをもとにファブリックへの展開を提案する。	10
2月		ファブリックデザイン・インテリア展開を総合的に計画し、プレゼンテーションボードを制作。プレゼンテーションの実施により、コンセプトが活かされたか判断する。	11
3月			9
		合計	117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	森田 聡		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習B(デッサン)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数			
科目の目標	デッサンの基礎・基本から発展までを学習する。 美術大学進学などの進路対策について対応する。		
評価の観点	形態や素材をよく観察しているか 構図の取り方、素材表現が向上したか		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	<1パート> デッサンとは何か 鉛筆デッサン 総合モチーフ	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンをする意味 ・短時間把握(クロッキー)の習慣 ・いろいろな形態を単品または組み合わせで表現する ・幾何形態 石膏 ・素材の違いを表現する 金属、木材、布、ガラス ・講評会(生徒同士で行う) 	11
5月			10
6月	空間のデッサン 全体講評	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のモチーフを配置(自分達で構図を考える) ・構図のとりかた、空間の表現を意識して描く。 	11
7月			10
8月			
9月	<2パート> デッサンとは何か 鉛筆デッサン 総合モチーフ	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサンをする意味 ・短時間把握(クロッキー)の習慣 ・いろいろな形態を単品または組み合わせで表現する ・幾何形態 石膏 ・素材の違いを表現する 金属、木材、布、ガラス ・講評会(生徒同士で行う) 	11
10月			12
11月	空間のデッサン 全体講評	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のモチーフを配置(自分達で構図を考える) ・構図のとりかた、空間の表現を意識して描く。 	12
12月			10
1月	空間のデッサン 卒業制作	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のモチーフを配置(自分達で構図を考える) ・構図のとりかた、空間の表現を意識して描く 	10
2月			11
3月			9
		合計	117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	竹野 秀治		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習B(1学期 ウッドクラフト 2学期・3学期 構造力学)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・木質系材料を使用したクラフト作品の制作を通し、ものづくりへの興味と関心を高める。 ・建築系進学者を対象に構造力学の基礎を学び、建築物の安全について興味と関心を高める 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・木質系材料を使用したクラフト作品の加工技術の習得と質感表現が出来たか。 ・構造力学の基礎が習得出来たか。 		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時 間数
4月	ウッドクラフトのコンペ 出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づいたコンセプト設定 ・市場調査 	11
5月	ウッドクラフトのコンペ 出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアのまとめ ・模型制作 	10
6月	ウッドクラフトのコンペ 出展作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 	11
7月	ウッドクラフトのコンペ 出展作品の制作と講 評	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 ・作品講評 	10
8月			
9月	構造物と力	<ul style="list-style-type: none"> ・構造物とは ・支点と荷重の種類 	11
10月	構造物と力	<ul style="list-style-type: none"> ・反力について 	12
11月	構造物と力	<ul style="list-style-type: none"> ・静定ばりの応力について(単純ばりの応力、片持ちばりの応力) 	12
12月	構造物と力	<ul style="list-style-type: none"> ・静定ラーメンの応力について(片持ちばり系ラーメンの応力、単純ばり系ラーメンの応力) 	10
1月	構造物と力	<ul style="list-style-type: none"> ・静定トラスの応力について 	10
2月	部材の断面	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の性質について(応力度、変形、弾性係数、許容応力度) 	11
3月	部材の断面	<ul style="list-style-type: none"> ・断面の性質について(断面1次モーメント2次モーメント、断面係数、応力度) 	9
合計			117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	松本和樹		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	課題研究(模型班)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	4単位		
科目の目標	ライフスタイル、生活志向に関するリサーチを行い、自らテーマを設定し、住宅とそのインテリアに関する提案を行う。		
評価の観点	<情意> リサーチの内容が自分の提案を裏付ける内容となっているか <知力> 設定したテーマが提案性の高いものとなっているか <技能> インテリア計画に関する知識、技術が実践的に活用出来たか <認知> 提案を提示する上での確かなプレゼンテーションが行われたか		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	テーマの設定 初期設計	・家族像、住宅の形式、規模、立地、現代のライフスタイルの傾向からテーマを設定する ・提案内容を踏まえた設計図面を作成する	12
5月	ホワイト模型作成	・設計図面を模型化し、設計確認を行う	16
6月	プレゼンテーション	・テーマとその計画について、授業内でプレゼンテーションを行う ・意見を出し合い、計画を見直す	12
7月	テーマの設定・決定 図面作成	・ホワイト模型製作からの考察をもとに、再度研究テーマや設計を見直す ・提案内容を踏まえた設計図面を作成する	16
8月			
9月	完成模型の作成	・提案内容を提示するための模型の作成を行う	14
10月	完成模型の作成	・インテリアやエクステリア、その素材や計画にも考慮して模型を仕上げる	16
11月	イラストレーション	・平面計画をCADで描き、提案の説明イラストを描く	14
12月	プレゼンテーション ボードの作成	・提示したプランをプレゼンボードにレイアウトし、まとめる	16
1月	プレゼンテーション シートの作成	・プレゼンテーション用ソフトを使用しプレゼンテーションの視覚的効果を学ぶ	16
2月	プレゼンテーション	・効果的な展示計画・プレゼンテーションを学ぶ	12
3月	まとめ	・卒展において住宅設計班として模型の提案を行う ・そのための設営方法や展示計画を行う	12
		合計	156

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	竹野秀治・森田 聡		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	課題研究(クラシックファニチャー班)・(モダンファニチャー班)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	4単位		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックファニチャー・モダンファニチャーについて、体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられが技術を身に付ける ・家具制作に関する課題を発見し、独創的、かつ創造的に解決する能力を養う ・課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、主体的かつ協働的に取組む態度を養う 		
評価の観点	<p><知識・技能>家具設計、制作方法、及び機械加工に関する知識と技術の理解度</p> <p><思考力・判断力・表現力>市場調査・コンセプト立案に基づくデザイン・設計などの総合的な判断・表現の度合い</p> <p><主体的に学習に取り組む態度>家具設計、制作方法、及び機械加工への関心と主体的かつ協働的な取組みの度合い</p>		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	家具の設計法	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の歴史や市場調査を行いながら、家具デザイン・制作の意味を学ぶ ・コンセプトに基づき、アイデアスケッチを描く 	12
5月	家具の製作製図	<ul style="list-style-type: none"> ・寸法や仕口、接手、及び工法を考察し、実際に使用できる家具の製作図を描く 	16
6月	ケーススタディー模型の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・模型を製作し、デザイン・設計の方向性を確認し、検討を重ねる 	12
7月	材料木取り	<ul style="list-style-type: none"> ・木取りを通し、木工機械の基礎を学ぶ 	16
8月			
9月	荒木取り	<ul style="list-style-type: none"> ・木取りを通し、木工機械の基礎を学ぶ 	14
10月	墨付け・木作り	<ul style="list-style-type: none"> ・墨付け・仕口などの手加工や木工機械を行い、木工具や木工機械の活用を学ぶ 	16
11月	機械加工	<ul style="list-style-type: none"> ・材料に墨付け後必要に応じ、仕口などの部位を木工機械と手加工で加工する ・木工具や木工機械の活用を学ぶ 	14
12月	手加工	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な仕上げ作業では、手仕上げ(手加工)を学ぶ 	16
1月	塗装技術	<ul style="list-style-type: none"> ・家具塗装の一連の流れである素地調整・下塗り・中塗り・仕上げ塗りを体得して学ぶ 	16
2月	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な展示計画・プレゼンテーションを学ぶ 	12
3月	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒展において設営方法や展示計画を行い、各自の家具を提案する 	12
		合計	156

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	齋藤 俊博		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア実習B(施工班)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位		
科目の目標	洋間の一室を実際に作る中から建築物の構造やインテリア施工の実際を学ぶ		
評価の観点	各工程において、道具に対する知識や技術を身に付けることができたか。手順の因果関係を理解できたか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	内装材の構成と工法 (前班)	1820(幅)×910(奥行)×1800(高さ)の内装模型を実際に製作する。 製材・工具調整 建築施工に必要な工具の知識と理解	11
5月		部材の加工(土台・柱・梁・間柱) 建築特有の加工法の理解	10
6月		組立・筋違取付・金物取付・根太・胴縁・野縁・耐震を考えた建築金物の知識 開口部(窓)取付 アルミサッシの寸法体系の理解	11
7月		内装材(PB・フローリング・天井材) 仕上げ材の種類理解 造作材(幅木・廻り縁)取付・仕上げ	10
8月			
9月	内装材の構成と工法 (後班)	1820(幅)×910(奥行)×1800(高さ)の内装模型を実際に製作する。 製材・工具調整 建築施工に必要な工具の知識と理解	11
10月		部材の加工(土台・柱・梁・間柱) 建築特有の加工法の理解	12
11月		組立・筋違取付・金物取付・根太・胴縁・野縁・耐震を考えた建築金物の知識 開口部(窓)取付 アルミサッシの寸法体系の理解	12
12月		内装材(PB・フローリング・天井材) 仕上げ材の種類理解 造作材(幅木・廻り縁)取付・仕上げ	10
1月	卒展に向けての プレゼンテーション	卒展での展示に向けて製作の概要をパネルにまとめる	10
2月		平面図・断面図・立面図をCADで整理	11
3月		製作風景の写真の整理・レイアウト	9
		合計	117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	竹野 秀治		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア設備		
使用教科書	インテリア設備		
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	2単位		
科目の目標	建築設備・インテリア関連法規を中心にインテリア設備に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。		
評価の観点	設備機器・リフォームへの関心と意欲的な取組みが図られているか。 知識の習得とその活用法を生み出せているか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	建築(住宅)史	建築の歴史を知ること、環境と建築・設備の関心を高める。	6
5月	給排水設備	地球環境の現状と建築設備の関わりを学ぶ。給排水設備の基礎知識。	8
6月	空気調和設備	空気調和設備の基礎知識。	8
7月	電気設備・その他の設備	電気・その他の設備機器の基礎知識	6
8月			
9月	インテリア関連法規	インテリア・インテリアコーディネート及びリフォームの理解を深めるため、関連のある法規を学ぶ。	7
10月	建ぺい率・容積率	建ぺい率・容積率の練習問題を解きながら学ぶ。	8
11月	高さ制限	北側斜線などの練習問題を解きながら学ぶ。	8
12月	開口部・階段・内装制限	階高や採光制限の練習問題を解きながら学ぶ。内装制限の基礎知識を学ぶ。	7
1月	キッチン	実際のキッチンリフォームを学び・手順や知識を得る。	6
2月	トイレ	実際のトイレリフォームを学び・手順や知識を得る。	8
3月	浴室・その他の室	実際の浴室リフォーム等を学び・手順や知識を得る。	6
		合計	78

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	喜多崎 薫		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	デザイン史		
使用教科書	デザイン史		
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	2単位		
科目の目標	デザイン史を学習することで、歴史の中での社会と芸術家、デザイナーの造形活動を理解し、デザインの視野を広げる。		
評価の観点	デザインの様式、時代背景の特徴を理解する。 芸術家、デザイナーの造形活動・精神・作品と関わりを理解する。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	①西洋近代 考査(中間) 考査(期末)	1. デザイン史とは／社会とデザインの関わり 2. 産業革命とアーツアンドクラフツ運動	6
5月		3. 装飾とデザイン／アール・ヌーヴォー 4. アカデミズムへの反発／ウィーン分離派	8
6月		5. 近代デザインの意識／シカゴ派・キュビズム・ダダイズム 6. 戦争とデザイン／ロシア構成主義	8
7月		7. モダンデザインへの挑戦／ドイツ工作連盟とバウハウス 8. スタイリングのデザイン／アール・デコからストリウムライン	6
8月			
9月	①西洋近代	9. 現代様式の確立／インターナショナルスタイルとオーガニックデザイン 10. 現代装飾と機能／スカンジナビアンモダン	7
10月	②古代から近世 考査(中間) 考査(期末)	11. 芸術のはじまり／原始・古代 12. 古代文明のデザイン1／エジプト・メソポタミア 13. 古代文明のデザイン2／ギリシャ	8
11月		14. 都市国家と発明／ローマ 15. 宗教建築の芽生え／ビザンチンとイスラム	8
12月		16. キリスト教のデザイン／ロマネスクとゴシック 17. 古典への回帰／ルネッサンスとロマネスク	7
1月	②古代から近世	18. 権力とデザイン／バロックとロココ 19. 新古典主義	6
2月	③現代のデザイン 考査(学年末)	20. オリンピックとデザイン 21. 現代生活とデザイン	8
3月		22. 社会とデザインの関係(まとめ)	6
		合計	78

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	川合 まさ子		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリアコーディネーターA		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科(選択)		
単位数	2単位		
科目の目標	インテリアコーディネーターの資格取得を目的に、「販売編」における分野の総合的な知識を身につけさせる。 出題傾向の把握から基礎力・応用力の養成を図る。		
評価の観点	各単元における知識を複合的に理解しているか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	インテリア販売・インテリアの歴史	・コンサルティング ・積算・見積もり・マーケティング ・日本、西洋の歴史	6
5月	インテリア計画	・人間工学、寸法計画 ・住居空間の設計・健康、安全、バリアフリーのための計画 ・模擬問題演習と過去問題の宿題	8
6月	色彩と造形	・色彩 ・造形	8
7月	家具・ウインドウトリートメント	・家具 ・家具金物・ウインドウトリートメント	6
8月			
9月	各種エレメント	・エクステリア・グリーン ・テーブル、キッチン用品 ・模擬問題演習・『インテリアコーディネーター1次過去問題徹底研究』を用いて実践的に指導する。試験に即した実際の時間で予想問題を解く	7
10月	試験のまとめ	・1次試験事前指導と自己採点 ・2次試験の概要と対策 ・プランニング指導。過去問題から解法と演習を行う。	8
11月	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策(立面図、展開図、パース図、アイソメ、アクソメ)	8
12月	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策の模擬試験を行う。 ・2次試験後の模範解答作成。	7
1月	インテリア演習	・店舗設計 ・2次試験対策で学習した室内パースを元に、1/50スケールの模型を制作し発表する。	6
2月	インテリア演習	・店舗設計 ・2次試験対策で学習した室内パースを元に、1/50スケールの模型を制作し発表する。	8
3月	インテリア演習	・インテリアショールーム見学	6
		合計	78

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	竹野 秀治		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリアコーディネーターB		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科(選択)		
単位数	2単位		
科目の目標	インテリアコーディネーターの資格取得を目的に、「技術編」における分野の総合的な知識を身につけさせる。 出題傾向の把握から基礎力・応用力の養成を図る。		
評価の観点	各単元における知識を複合的に理解しているか。		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	構造と施工	・建築構造 ・下地と仕上げ、造作 ・模擬問題演習と過去問題の宿題	6
5月	材料	・建築材料 ・仕上げ材・塗料 ・模擬問題演習と過去問題の宿題	8
6月	建具・環境工学	・建具・建具金物 ・熱と湿気、換気と通風 ・音・採光と照明	8
7月	住宅設備	・冷暖房、空調設備 ・給排水設備 ・キッチン、サニタリーの設備機器・模擬問題演習	6
8月			
9月	建築関連法規・消費者関連法規	・建築基準法 ・その他の建築関連法規・消費者関連法規 ・模擬問題演習・『インテリアコーディネーター1次過去問題徹底研究』を用いて実践的に指導する。試験に即した実際の時間で予想問題を解く	7
10月	試験のまとめ	・1次試験事前指導と自己採点 ・2次試験の概要と対策 ・プランニング指導。過去問題から解法と演習を行う。	8
11月	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策(インテリア平面図の作成)	8
12月	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策の模擬試験を行う。 ・2次試験後の模範解答作成。	7
1月	インテリア演習	・店舗設計 ・2次試験対策で学習した室内パースを元に、1/50スケールの模型を制作し発表する。	6
2月	インテリア演習	・店舗設計 ・2次試験対策で学習した室内パースを元に、1/50スケールの模型を制作し発表する。	8
3月	インテリア演習	・インテリアショールーム見学	6
合計			78

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名		矢澤 正己	
教科の名称		工業(インテリア)	
科目の名称		インテリアコーディネート演習	
使用教科書			
指導学年・学科		3学年インテリア科(選択)	
単位数		2単位	
科目の目標		これまで学んできたインテリアコーディネートの知識をもとに 実際の技術や理論を経験的に身に付ける。	
評価の観点		各単元における知識を複合的に理解しているか。	
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時 間数
4月	テーマの設定 初期設計	・家族像、住宅の形式、規模、立地、現代のライフスタイルの傾向からテーマを設定する ・提案内容を踏まえた設計図面を作成する	2
5月	模型の作成	様式に沿った模型の作成を行う	8
6月	模型の作成	様式に沿った模型の作成を行う	8
7月	プレゼンテーション	・テーマとその計画について、授業内でプレゼンテーションを行う ・意見を出し合い、計画を見直す	4
8月			
9月	テーマの設定 初期設計	・家族像、住宅の形式、規模、立地、現代のライフスタイルの傾向からテーマを設定する ・提案内容を踏まえた設計図面を作成する	8
10月	模型の作成	様式に沿った模型の作成を行う	8
11月	模型の作成	様式に沿った模型の作成を行う	8
12月	プレゼンテーション	・テーマとその計画について、授業内でプレゼンテーションを行う ・意見を出し合い、計画を見直す	6
1月	プレゼンテーション	・効果的な展示計画・プレゼンテーションを学ぶ	6
2月	まとめ	・卒展において住宅設計班として模型の提案を行う ・そのための設営方法や展示計画を行う	6
3月			
		合計	64

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	森田 聡		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア技術A(水曜選択)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科(選択)		
単位数	2単位		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアに関連する描写手法を実践的に理解し、伝達技術や表現を身に付け、インテリアデザインへの興味・関心を高める ・インテリアの描写・表現、及び伝達技術に関する課題を自ら発見し、解決する力を養う ・インテリアに関する描写・表現、及び伝達技術の向上させ、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う 		
評価の観点	<p><知識・技能>描写手法の知識、及び描写表現の技術的な習得</p> <p><思考力・判断力・表現力>対象物の見方・考え方及び表現について理解</p> <p><主体的に学習に取り組む態度>対象物の観察、及び描写への関心と主体的かつ協働的な取組</p>		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	静物デッサン①	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 	6
5月	静物デッサン①・講評 静物デッサン②	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	8
6月	静物デッサン②	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 	8
7月	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	6
8月			
9月	構成デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 	7
10月	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチからインテリアデザインへ発展させる。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	8
11月	着彩表現	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 	8
12月	講評	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチからインテリアデザインへ発展させる。 ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	7
1月	表現研究 講評	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物や事象の捉え方を把握する。 ・対象物や事象についての伝達表現方法を習得する。 ・立体的なものの見方・考え方を理解する。 ・立体感・空間感・陰影・材質感・固有色などを考慮し細部まで描写することで表現の幅を広げる。 ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	6
		合計	64

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	竹野 秀治		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア技術B		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科		
単位数	3単位		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・立体物の制作を通し立体的なもののとらえ方を養い、その素材や加工法も学ぶ。 ・設計競技に挑戦し、デザインの興味と関心を高める。 		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・デザインへの関心と意欲的な取り組み ・設計手法の知識と表現・製図の技術的な習得 ・インテリアデザインに関する理解と関心 		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	立体作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ画よりアイデチアの立案 ・アイデチアをもとに素材の選択 	11
5月	立体作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・加工方法、制作手順の計画 ・模型及び図面化し細分検討 	10
6月	立体作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 	11
7月	立体作品の制作	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 	10
8月			
9月	立体作品の制作と講評	<ul style="list-style-type: none"> ・制作 ・講評 	11
10月	設計競技会参加 コンセプト立て	<ul style="list-style-type: none"> ・設計競技の内容・状況の把握 ・コンセプトの重要性を知る 	12
11月	設計競技会参加 スケッチ画	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトにあったスケッチ画を起こし、デザインを発展させる ・平面から立体へイメージにずれがないかの確認 	12
12月	設計競技会参加 ラフ模型制作	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトにあったスケッチ画を起こし、デザインを発展させる 	10
1月	設計競技会参加 ラフ図	<ul style="list-style-type: none"> ・再度、図面化し細部の検討する。 	10
2月	設計競技会参加 レイアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・提出するボードを制作する 	11
3月	設計競技会参加 プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの発表を行う ・計画をもとに実制作 	9
		合計	117

令和5年度 年間授業計画

東京都立工芸高等学校 全日制課程

担当者教員名	矢澤 正己		
教科の名称	工業(インテリア)		
科目の名称	インテリア技術C(木曜選択)		
使用教科書			
指導学年・学科	3学年インテリア科(選択)		
単位数	2単位		
科目の目標	・デザインコンペティションに参加することで、問題点とその解決方法を考察し、アイデアの構築からプレゼンテーションまでの一連のデザインワークを身につけることを目指す。		
評価の観点	<情意> デザインと社会の関係について興味を持ち意欲的な取組みをする <知力> デザイン構築の手法と知識の習得 <技能> プレゼンテーションの技術的な習得 <認知> インテリアデザインや空間デザインに関する理解		
月	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標 【年間授業計画】	予定時間数
4月	デザインコンペ参加 A	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 ・コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 ・具体的なデザイン提案を作成する。 ・コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 ・効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 ・プレゼンテーションツールを作成する。 	6
5月			8
6月			8
7月	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	6
8月			
9月	デザインコンペ参加 A	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 ・コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 ・具体的なデザイン提案を作成する。 ・コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 ・効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 ・プレゼンテーションツールを作成する。 	7
10月			8
11月			8
12月	プレゼンテーション 講評	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	7
1月	インテリアにおける プレゼンテーション演習 講評	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアデザインに関する理解をもとに演習を行なう。 ・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。 	6
2月			8
3月			6
		合計	78